

再改訂版

佐世保市学校再編計画  
【第1期】  
2022(R4)～2031(R13)年

令和5年9月  
佐世保市教育委員会

# 目 次

はじめに	P. 2
1 学校再編の基本的な考え方と今後の進め方	P. 3
2 【第1期】学校再編計画 2022(R4)～2031(R13)	P. 4
3 2032(R14)年以降の【第2期】学校再編計画	P. 5
(資料編)	P. 6
I 【第1期】計画詳細(地区別)	P. 8
II 学校再編実施「未定」・「保留」地区の検討課題について	P. 20

## はじめに

佐世保市の公立小・中学校には、昭和30年代のピーク時、7万人を超える児童生徒が在籍していましたが、令和元年度に初めて2万人を下回りました。令和元年度に実施した佐世保市教育委員会の調査によると、2040年頃には、さらに2割以上の児童生徒が減少するという推計もあります。

また、高度成長期に建てられた多くの学校施設は、施設更新を検討する時期を迎えています。

そこで佐世保市では、学校再編の議論を保護者・地域の皆様とともに始めるため、文部科学省の手引きや佐世保市通学区域審議会の答申を踏まえながら、令和2年3月に佐世保市学校再編基本方針を策定しました。

この基本方針における全17グループ、計51校を再編検討対象として各学校・地域の実情に合わせ、素案として教育委員会事務局の再編案を作成し、令和2年度には、学校単位、あるいはグループ単位で学校管理職、PTA役員、地域代表者を対象とした説明会を実施しました。

令和3年度からは、広く、対象校の保護者や地域の皆様のご意見を伺うため、合計34回<sup>\*1</sup>の「新しい学校推進意見交換会」を開催しました。

学校再編につきましては、この意見交換会において様々なご意見をいただき、計画推進には慎重な判断が求められていることは言うまでもありませんが、一方で、学校の小規模化、施設老朽化等の課題が進行していく中、子どもたちが、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していけるような確かな資質・能力を育むためには、学校規模の確保や施設改修等、教育環境を維持していくための対策を計画的に推し進めていく必要があると考えます。

そこで、令和4年3月に意見交換会におけるご意見なども踏まえ、重点的に学校再編に取り組み、円滑にこれを推進していくための指針として、「佐世保市学校再編計画」を取りまとめました。

令和4年度には、その「佐世保市学校再編計画」【第1期】に挙げたグループにおいて、地域代表者、PTA会長・育友会代表者、行政（教育委員会等）の3者によるワーキングチーム協議を行い、再編に係る課題の整理を行いました。一部の地区では、教育委員会が示した案とは異なる案や意見が出されましたので、提示された案や意見を踏まえ、学校再編計画の一部を変更し、協議を進めてきました。

さらに、ワーキングチーム協議が終わった地区につきましては、地域住民、未就学児・就学児童生徒の保護者等参加のもと、学校再編を考える会を開催し、学校再編についての合意形成を図り、全地区で方向性を確認することができました。

このような動きの中で、当初策定した計画から変更が必要な地区が生じたことから、今回改めて「佐世保市学校再編計画」【第1期】再改訂版を策定したものです。

今後も、保護者・地域の皆様と丁寧な議論を行いながら、各学校のより良い教育環境の整備を進めていきたいと考えています。

関係する皆様の更なるご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

\*1…検討後、再編の必要性が低いと判断した学校や、合同で意見交換会を実施した学校があったため34回の開催となったもの。

## 1 学校再編の基本的な考え方と今後の進め方

### ①【第1期】の設定と再編実施を目指す学校について

本計画では、令和4年度（2022）から13年度（2031）までの10年間で【第1期】として設定し、「再編の優先度」、「学校・地域の実情」、「施設更新にかかる事業規模の平準化」等の観点から、この期間中に再編実施を目標とするグループとして全7グループ（関連19校）を挙げています。

### ②【第2期】以降の取組について

令和14年度（2032）以降は学校再編の【第2期】と設定し、【第1期】の対象ではない学校におきましても、令和4年度以降、適宜意見交換の場を設けていきたいと考えています。

### ③通学負担軽減への対応について

学校再編を実施するにあたり、バス等による通学を検討する学校において、その通学費補助に係る基準の取扱いについては、それぞれの事情に応じた対応を講じることも検討します。また、これに伴い必要となる予算については、学校再編により生じる財源面での効果を活用できないか検討します。

### ④指定外通学の取扱いについて

学校再編により生じる子どもたちの通学における負担増や地域コミュニティへの影響等を勘案しながら、それぞれの事情に応じた対応を講じることも検討します。

### ⑤用途廃止となる施設の取扱いについて

地域の要望なども伺いながら、有効な活用方法を考えるとともに、活用方法が決定するまでの間は適切な維持管理に努めます。

### ⑥関係部局等との連携

学校再編を進めていくにあたり、教育委員会が所管する教育行政以外の分野に関連する諸課題については、これを所管する市関係部局とそれぞれ連携しながら調整を図ります。

また、学校施設の整備については、公共施設（建築物）全般の上位計画である「佐世保市公共施設等総合管理計画」に基づき、関連する計画との整合を図りながら進めていきます。

## 2 【第1期】学校再編計画 2022 (R4) ~2031 (R13)

期 間	再編実施 期 間	地区	学校名	再編案	設置場所	備 考
2022 (R4)	実施期間 (長期)	南	福石小学校	施設一体型 義務教育学校 (通学区域変更※1)	福石中	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎整備や学校の統合、通学区域の変更等を段階的に進める必要があり、協議の継続が重要</li> <li>課題解決の進捗状況に応じて期間を修正していくことも想定</li> <li>複数校の施設老朽化対策</li> </ul>
		南	福石中学校			
		崎辺・南	天神小学校	(通学区域変更※2)		
		崎辺・南	崎辺中学校	(通学区域変更※3)		
		南山澄	木風小学校 潮見小学校 白南風小学校	統合 (通学区域変更※4)	白南風小	
		山澄	山澄中学校	(通学区域変更※5)		
2031 (R13)	実施期間 (中期)	宇久	宇久小学校 宇久中学校	施設一体型 義務教育学校	宇久中	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政センター、コミュニティセンター等の早急な施設更新との連携</li> </ul>
		宮	宮小学校 宮中学校	施設一体型 義務教育学校	宮中	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮小の施設老朽化対策</li> </ul>
		西	金比良小学校 光海中学校	施設一体型 義務教育学校	光海中	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に小中一貫型学校として運営されており、義務教育学校のモデル校として適格</li> </ul>
		鹿町	鹿町小学校 歌浦小学校 鹿町中学校	施設一体型 義務教育学校	鹿町中	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会で早期実現を望む意見が多数であったため第1期の実施とする</li> </ul>
	実施期間 (短期)	吉井	吉井北小学校 吉井南小学校	統合	吉井南小	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模工事が必要なく、短期間で実施可能</li> <li>「小学校同士の統合」次に中学校を含めた施設一体型の「義務教育学校」と段階的な移行を検討</li> </ul>

### ○「通学区域変更」について

- 通学区域変更※1... (福石小) +干尽町+藤原2・3+稲荷1~4-沖新町+大黒町  
(福石中) +干尽町+藤原2・3+稲荷1~4-天神1丁目-天神2丁目一部  
-天神3丁目一部-天神5丁目一部-沖新町+大黒町
- 通学区域変更※2... (天神小) -大黒町+沖新町
- 通学区域変更※3... (崎辺中) +天神1丁目+天神2丁目一部+天神3丁目一部+天神5丁目一部  
+沖新町-大黒町
- 通学区域変更※4... (木風小) -藤原2・3-稲荷1~4  
(潮見小) -干尽町
- 通学区域変更※5... (山澄中) -干尽町-藤原2・3-稲荷1~4

### ○「実施期間」について

- (長期) ...再編において、施設整備などの完了までに約8年以上の期間が必要と想定される地区です。  
(中期) ...再編において、施設整備などの完了までに約3~5年の期間が必要と想定される地区です。  
(短期) ...再編において、施設整備期間が約1年と想定され、短期実現が可能な地区です。

### 3 2032 (R14) 年以降の【第2期】学校再編計画

期 間	再編実施 期 間	地区	学校名	教育委員会 事務局再編案	設置場所 (案)	想定課題
2032 (R14) 以降 〳	実施期間 (未定)	三川内	三川内小学校 三川内中学校	施設一体型 義務教育学校	三川内小	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育学校制度導入の検討</li> <li>統合予定施設の整備</li> <li>他中学校との統合等、多面的な検討の必要性</li> </ul>
		針尾 江上	針尾小学校 江上小学校 東明中学校	施設一体型 義務教育学校	東明中	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学距離増大、通学路安全確保</li> <li>義務教育学校制度導入の検討</li> <li>統合予定施設の整備</li> <li>IR事業による人口への影響</li> </ul>
		柚木	柚木小学校 柚木中学校	施設一体型 義務教育学校	柚木中	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育学校制度導入の検討</li> <li>統合予定施設の整備</li> <li>指定外通学申請による大野中への進学</li> </ul>
		小佐々	小佐々小学校 楠栖小学校 小佐々中学校	施設一体型 義務教育学校	小佐々中	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学距離増大、通学路安全確保</li> <li>統合予定施設の整備</li> <li>小佐々中の敷地の課題</li> <li>コミュニティ・スクールの取組への配慮</li> </ul>
		江迎	江迎小学校 猪調小学校 江迎中学校	施設一体型 義務教育学校	江迎中	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨時、江迎川の越水対策</li> <li>通学距離増大、通学路安全確保</li> <li>義務教育学校制度導入の検討</li> <li>統合予定施設の整備</li> </ul>
		世知原	世知原小学校 世知原中学校	施設一体型 義務教育学校	未定	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒数の増減の推移を見ながら検討</li> </ul>
	実施期間 (保留)	清水 北	大久保小学校 清水小学校	統合	清水小	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路の安全確保</li> <li>指定外通学</li> <li>学童クラブ</li> <li>学校規模増大への不安</li> </ul>
		中部	山手小学校 小佐世保小学校	統合	小佐世保小	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学距離増大、通学路安全確保</li> <li>通学区域の見直しによる規模改善等、他の選択肢の検討</li> <li>地域コミュニティの維持</li> </ul>
		相浦	相浦小学校 高島分校	統合	相浦小 本校	<ul style="list-style-type: none"> <li>船舶通学への不安</li> <li>地域コミュニティの維持</li> <li>唯一の避難所・ヘリポートなど、島内インフラの維持</li> </ul>
		相浦	相浦西小学校 大崎分校	統合	相浦西小 本校	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学距離増大、通学路安全確保</li> <li>地域コミュニティの維持</li> </ul>
		愛宕 九十九	赤崎小学校 船越小学校 愛宕中学校	施設一体型 義務教育学校	愛宕中	<ul style="list-style-type: none"> <li>3校統合による体育館等の施設不足の懸念</li> <li>統合予定地の立地条件への懸念</li> <li>児童生徒数の増減推移、県道建設等の動向の確認</li> </ul>

#### ○「実施期間」について

(未定) …意見交換会において賛否両論はありましたが、再編の必要性には一定のご理解もあり、今後、課題への対策を図ることによって検討を進められると想定される地区です。また、検討優先度から、【第2期】以降の取組を想定する地区です。

(保留) …再編で予想される課題に対し保護者・地域住民の皆様の懸念が大きく、長期的に学校教育環境の推移を見ながら対応を講じていく必要があると想定される地区です。

○佐世保市学校再編基本方針（令和2年3月）に記載された再編検討対象校のうち、港小学校、祇園小学校、春日小学校、清水中学校、大野中学校は、検討の結果「現状維持」とします。（施設更新については、学校再編と別に検討を行います。）

# 佐世保市学校再編計画

## (資料編)

本資料は、佐世保市学校再編計画における実施期間の目安や、各地区で必要と考えられる検討事項の詳細を、下記のような考え方で整理したものです。

### I 【第1期】計画詳細（地区別）

【第1期】に再編実施を目標とする地区の「再編方針」や今後の「検討事項」の詳細を記載したものです。

### II 学校再編実施「未定」・「保留」地区の検討課題について

検討優先度から【第2期】以降の取組が想定される地区や、課題に対する懸念の大きさから協議に時間を要すると想定される地区において、留意しておくべき検討課題を記載したものです。

## (資料編)

### 目 次

#### I 【第1期】計画詳細（地区別）

- (1) 南地区・崎辺地区・山澄地区 . . . . . P. 9～12

**別表1** 「南地区・崎辺地区・山澄地区」通学区域の変更（案）  
及び児童生徒数推計一覧表 . . . . . P. 13

- (2) 宇久地区 . . . . . P. 14

- (3) 宮地区 . . . . . P. 15

- (4) 西地区 . . . . . P. 16

- (5) 鹿町地区 . . . . . P. 17

- (6) 吉井地区 . . . . . P. 18

**別表2** 「宇久」「宮」「西」「鹿町」「世知原」「吉井」  
通学区域の変更（案）及び児童生徒数推計一覧表 . . . P. 19

#### II 学校再編実施「未定」・「保留」地区の検討課題について

- (1) 再編実施「未定」地区

三川内地区、針尾・江上地区、柚木地区 . . . . . P. 21

小佐々地区、江迎地区、世知原地区 . . . . . P. 22

- (2) 再編実施「保留」地区

清水・北地区、中部地区 . . . . . P. 23

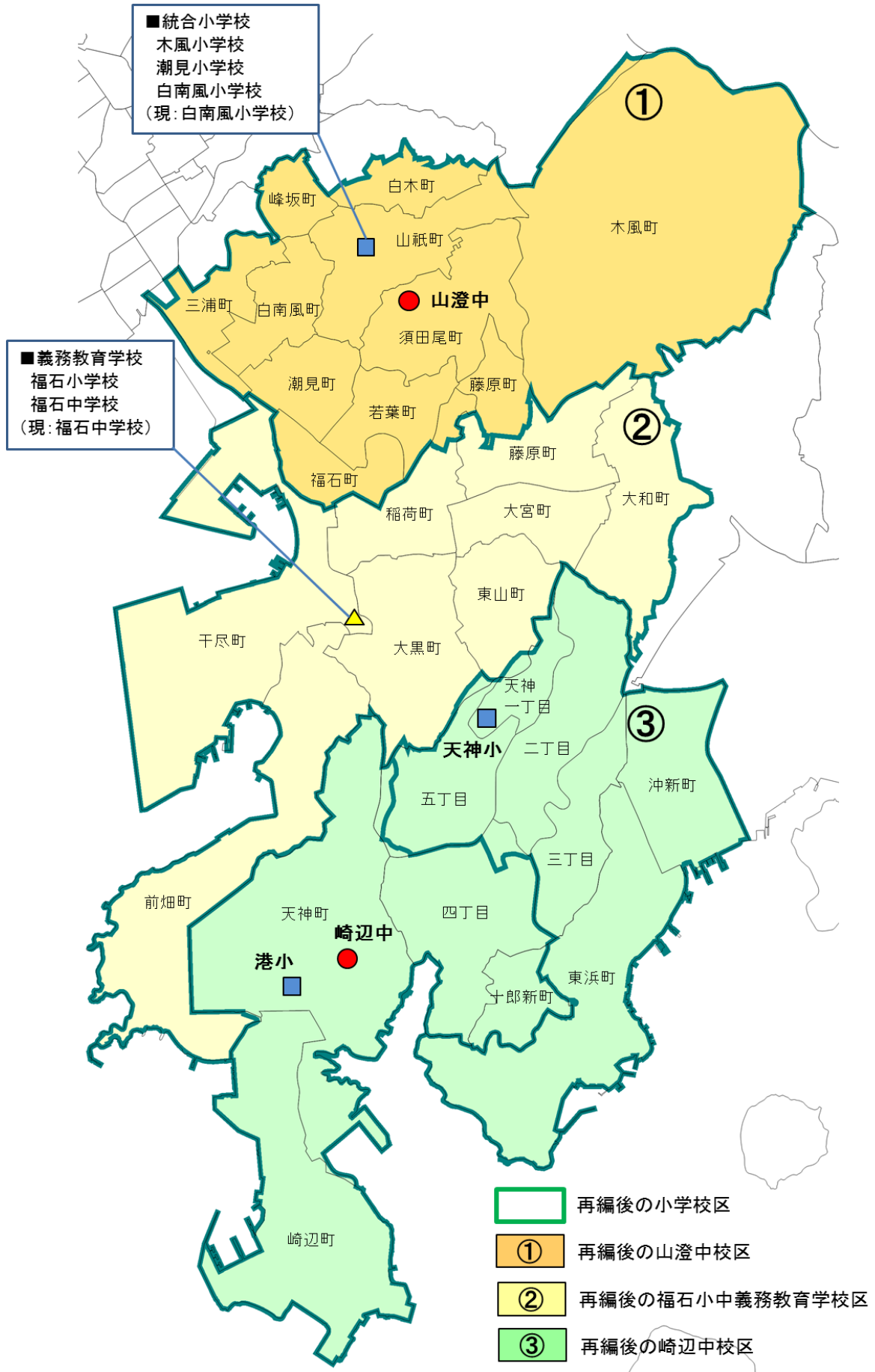
相浦地区、愛宕地区・九十九地区 . . . . . P. 24



# I 【第1期】計画詳細（地区別）

# (1) 南地区・崎辺地区・山澄地区

再編案による通学区域（校区）図



◇ 山澄地区・南地区・崎辺地区内小学校

小学校	白南風小	潮見小	木風小	福石小	天神小	港小
児童数	272名	152名	208名	249名	324名	224名
約20年後の推計児童数	約230名	約120名	約160名	約210名	約210名	約270名
学級数(特支含)	12(15)学級	6(8)学級	8(12)学級	11(13)学級	12(17)学級	10(14)学級
建築年数	58年	66年	63年	65年	57年	50年
校舎延床面積	3,971 m <sup>2</sup>	2,965 m <sup>2</sup>	3,919 m <sup>2</sup>	3,439 m <sup>2</sup>	5,422 m <sup>2</sup>	5,909 m <sup>2</sup>
運動場面積	約5,100 m <sup>2</sup>	約5,100 m <sup>2</sup>	約5,700 m <sup>2</sup>	約3,000 m <sup>2</sup>	約5,800 m <sup>2</sup>	約6,800 m <sup>2</sup>
敷地面積	約15,600 m <sup>2</sup>	約7,300 m <sup>2</sup>	約14,300 m <sup>2</sup>	約9,500 m <sup>2</sup>	約14,400 m <sup>2</sup>	約17,100 m <sup>2</sup>
主な自治協区域	山澄	山澄	南	南	崎辺	崎辺

◇ 山澄地区・南地区・崎辺地区内中学校

中学校	山澄中	福石中	崎辺中
生徒数	293名	226名	235名
約20年後の推計生徒数	約210名	約140名	約160名
学級数(特支含)	9(13)学級	6(8)学級	7(10)学級
建築年数	54年	61年	41年
校舎延床面積	5,583 m <sup>2</sup>	4,025 m <sup>2</sup>	5,333 m <sup>2</sup>
運動場面積	約7,700 m <sup>2</sup>	約12,300 m <sup>2</sup>	約11,400 m <sup>2</sup>
敷地面積	約20,700 m <sup>2</sup>	約29,300 m <sup>2</sup>	約24,300 m <sup>2</sup>
主な自治協区域	山澄	南	崎辺

(児童数・学級数・建築年数は令和5年度 校舎延床面積…施設台帳より)

① 崎辺地区・南地区学校の再編（潮見小学校・山澄中学校の通学区域変更を含む）

対象校	福石小学校 福石中学校	統合場所 (案)	福石中学校
	天神小学校 崎辺中学校 潮見小学校 木風小学校 山澄中学校	※通学区域の変更…P.13の別表1参照	
再編方針	<p>◆福石小学校と福石中学校を施設一体型の義務教育学校に統合する。</p> <p>◆施設は、現福石中学校の敷地に集約・整備する。</p> <p>◆通学区域の変更          (小学校) 福石小学校の通学区域である沖新町を天神小学校区へ、天神小学校の通学区域の一部である大黒町、潮見小学校の通学区域の一部である干尽町、木風小学校の通学区域である藤原町2・3組及び稲荷町1～4組を福石小学校の通学区域に変更する。          (中学校) 福石中学校の通学区域である天神1丁目、天神2丁目の一部、天神3丁目の一部、天神5丁目の一部、沖新町を崎辺中学校区へ、崎辺中学校の通学区域の一部である大黒町、山澄中学校の通学区域の一部である干尽町、藤原町2・3組及び稲荷町1～4組を福石中学校の通学区域に変更する。</p>		
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福石中は、現在、全学年でクラス替えが可能な規模ですが、望ましい学校規模（12～18学級）は下回っている状況です。今後も生徒数は減少傾向にあり、引き続き望ましい学校規模を下回る見通しとなっています。</li> <li>・福石小は、現在、全学年でクラス替えができる望ましい学校規模（12～18学級）ですが、約20年後までに80名ほど児童数が減少する見込みであり、今後クラス替えができない学年が増える可能性があります。</li> <li>・福石中は、最も古い校舎で築61年が経過しており、施設更新の検討が必要です。</li> <li>・福石小は、最も古い校舎で築65年が経過しており、施設更新の検討が必要です。</li> <li>・そこで、両校の老朽化対策とともに、学校全体としての一定の集団規模を確保するため、両校を施設一体型の義務教育学校に統合します。統合場所は、福石中の敷地とし、校舎を整備します。</li> <li>・工事期間中、福石中の生徒は、福石中の敷地内に仮設校舎を設置します。新校舎が完成した段階で、福石小・福石中を統合し、施設一体型の義務教育学校とします。</li> </ul>		

## ② 山澄地区・南地区学校の再編

対象校	白南風小学校 潮見小学校 木風小学校	統合場所 (案)	白南風小学校
再編方針	<p>◆白南風小学校、潮見小学校及び木風小学校を統合する。</p> <p>◆統合小学校の場所を、白南風小学校の敷地とする。</p> <p>◆新統合小学校（現白南風小学校）の開校に合わせ、現木風小学校・潮見小学校及び山澄中学校の通学区域の一部である干尽町、藤原町2・3組、稲荷1～4組を福石小学校と福石中学校を統合した義務教育学校の通学区域に変更する。</p>		
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白南風小は、現在、全学年でクラス替えができる望ましい学級数ですが、約20年後までに50名ほど児童数が減少する見込みであり、今後クラス替えができない学年が増える可能性があります。</li> <li>・白南風小は、現在、最も古い校舎で築58年が経過しており、施設更新の検討が必要です。</li> <li>・潮見小は、現在、クラス替えができない学年が多い小規模校です。約20年後までに40名ほど児童数が減少する見込みです。</li> <li>・潮見小は、現在、最も古い校舎で築66年が経過しており、施設更新の検討が必要です。</li> <li>・木風小の通学区域である木風町、藤原町、稲荷町は南地区自治協議会の区域ですが、指定中学校は、稲荷町1組を除き、山澄地区自治協議会の区域にある山澄中です。また、木風町や藤原町は、同じ南地区自治協議会の区域にある福石中より、山澄中への通学距離が短い位置関係にあります。</li> <li>・そこで、20年後もクラス替えができる学校規模とするため、白南風小の通学区域、潮見小の通学区域及び木風小の通学区域の一部である木風町と藤原町1組、稲荷町5組を、最も敷地の広い白南風小の敷地に統合します。併せて、校舎の整備を行い、児童の安全で快適な教育環境を整えることで、白南風小、潮見小、木風小の老朽化対策を図ります。</li> <li>・校舎整備を前に、白南風小、潮見小、木風小を統合し、新たな統合小学校に再編します。</li> <li>・校舎整備の際は、潮見小及び木風小の敷地に仮設校舎を設置し、潮見分校、木風分校とします。約2年間、白南風小学校に通っていた児童は、潮見分校、木風分校に分散して通学していただくこととなります。統合小の校舎が完成した段階で、最終的に3校を統合します。</li> </ul>		

**別表1 「南地区・崎辺地区・山澄地区」通学区域の変更（案）及び児童生徒数推計一覧表**

(P.11・P.12 関係)

※再編後の下線・**太字**は再編後に通学する学校の場所が変わる地区です。(地区の一部のみ変わる場合もあります。)

**①南地区・崎辺地区・山澄地区 小学校の通学区域**

再編前			再編後（案）		
小学校名 (2023 児童数)	通学区域	中学校区	小学校名 (2040 児童推計)	通学区域	中学校区
港小 (224名)	十郎新町 天神町 崎辺町 天神四丁目（一部を除く） 天神五丁目の一部	崎辺中	港小 (約270名)	変更なし	崎辺中
天神小 (324名)	天神一丁目 天神二丁目 天神三丁目 天神四丁目の一部 天神五丁目（一部を除く） 東浜町 <u>大黒町（一部を除く）</u>		天神小 (約190名)	天神一丁目 天神二丁目 天神三丁目 天神四丁目の一部 天神五丁目（一部を除く） 東浜町 <b>沖新町</b>	
福石小 (249名)	前畑町 <b>沖新町</b> <b>大黒町の一部</b> 東山町 大和町の一部 大宮町 干尽町（一部を除く）	福石中	福石小 義務教育学校 【前期課程】 (約290名) ※義務教育学校 約440名	前畑町 東山町 大和町の一部 大宮町 <b>干尽町 大黒町</b> <b>藤原町2・3</b> <b>稲荷町1～4</b>	義務教育学校 (福石小 ・福石中)
木風小 (208名)	木風町 <b>藤原町 稲荷町</b>	山澄中	白南風 ・潮見 ・木風 統合小 (約440名)	木風町 <b>藤原町1 稲荷町5</b> 福石町 若葉町 潮見町 山祇町 須田尾町 峰坂町 白南風町 白木町の一部 三浦町（一部を除く）	山澄中
潮見小 (152名)	福石町 若葉町 潮見町 <b>干尽町の一部</b>				
白南風小 (272名)	山祇町 須田尾町 峰坂町 白南風町 白木町の一部 三浦町（一部を除く）				

※通学区域を見直すことで、中学校区が整理されます。

**②南地区・崎辺地区・山澄地区 中学校の通学区域**

再編前		再編後（案）	
中学校名 (2023 生徒数)	通学区域	中学校名 (2040 生徒推計)	通学区域
崎辺中 (235名)	十郎新町 天神町 崎辺町 <b>天神二丁目の一部</b> 天神三丁目（一部を除く） 天神四丁目 天神五丁目（一部を除く） 東浜町 <b>大黒町の一部</b>	崎辺中 (約180名)	十郎新町 天神町 崎辺町 <b>天神一丁目 天神二丁目</b> <b>天神三丁目</b> 天神四丁目 <b>天神五丁目</b> 東浜町 <b>沖新町</b>
福石中 (226名)	<b>天神一丁目 天神二丁目（一部を除く）</b> <b>天神三丁目の一部 天神五丁目の一部</b> 前畑町 <b>沖新町</b> 東山町 大宮町 大和町の一部 干尽町（一部を除く） <b>大黒町（一部を除く）</b> <b>稲荷町の一部</b>	福石中 義務教育学校 【後期課程】 (約150名) ※義務教育学校 約440名	前畑町 東山町 大宮町 大和町の一部 <b>干尽町 大黒町</b> <b>藤原町2・3 稲荷町1～4</b>
山澄中 (293名)	<b>干尽町の一部</b> 木風町 <b>藤原町 稲荷町（一部を除く）</b> 福石町 若葉町 潮見町 山祇町 須田尾町 峰坂町 三浦町（一部を除く） 白南風町 白木町の一部	山澄中 (約190名)	木風町 <b>藤原町1 稲荷町5</b> 福石町 若葉町 潮見町 山祇町 須田尾町 峰坂町 三浦町（一部を除く） 白南風町 白木町の一部

## (2) 宇久地区



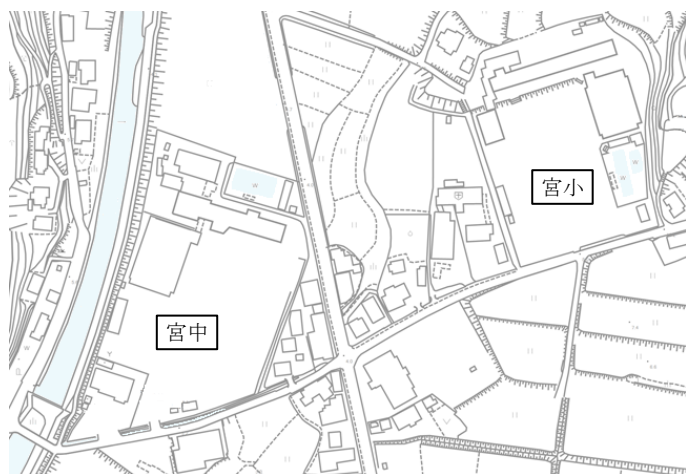
小・中学校	宇久小	宇久中
児童生徒数	32人	16人
約20年後の推計児童数	13名前後	6名前後
学級数(特別支援含む)	4(5)学級	3(2)学級
建築年数	54年	39年
校舎延床面積	2,545 m <sup>2</sup>	2,857 m <sup>2</sup>
運動場面積	約4,800 m <sup>2</sup>	約3,300 m <sup>2</sup>
敷地面積	約9,700 m <sup>2</sup>	約8,500 m <sup>2</sup>
地区自治協議会区域	宇久	宇久

学校近隣図

(児童生徒数・学級数・建築年数は令和5年度 校舎延床面積…施設台帳より)

対象校	宇久小学校 宇久中学校	統合場所(案)	宇久中学校
再編方針	<p>◆宇久小学校・宇久中学校を施設一体型義務教育学校とする。 (義務教育学校への統合後も、県教委と連携し、小中高一貫教育を推進する)</p> <p>◆施設は、現宇久中学校の敷地に集約・整備する。</p> <p>◆宇久小学校跡地には、宇久行政センター等の公共施設の整備・集約をする。</p>		
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇久小と宇久中は、複式学級を有する小規模校で、離島という地理的条件もあり、今後も児童生徒数に大きな増加は見込まれず、引き続き望ましい学校規模を下回る見込みです。</li> <li>宇久小は、現在、最も古い校舎で築54年が経過しており、施設更新の検討が必要です。</li> <li>そこで、これまで保護者や地域関係者から寄せられた意見や、宇久高校との小中高一貫教育活動の継続などの観点も踏まえ、県教委と継続して連携を図りながら、施設一体型の義務教育学校とします。</li> <li>統合場所は宇久中の敷地とします。理由は、比較的校舎が新しいこと、中学校裏手にあるエビスが丘運動広場の有効活用等ができるためです。併せて宇久中の敷地に小学生(前期課程児童)用校舎を整備することで、老朽化対策が可能となることです。</li> </ul>		

### (3) 宮地区



小・中学校	宮小	宮中
児童数	138名	53名
約20年後の推計	約140名	約60名
学級数(特支含)	6(10)学級	3(4)学級
建築年数	55年	38年
校舎延床面積	2,911 m <sup>2</sup>	2,477 m <sup>2</sup>
運動場面積	約6,800 m <sup>2</sup>	約7,500 m <sup>2</sup>
敷地面積	約13,200 m <sup>2</sup>	約17,100 m <sup>2</sup>
主な自治協区域	宮	宮

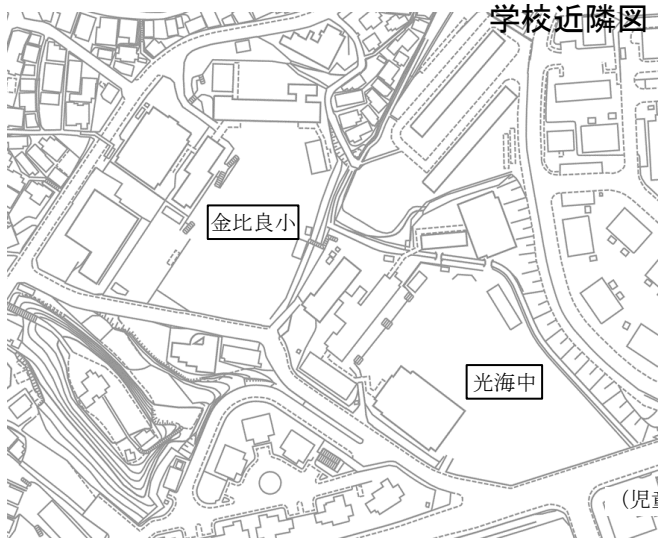
学校近隣図

(児童生徒数・学級数・建築年数は令和5年度 校舎延床面積…施設台帳より)

対象校	宮小学校 宮中学校	統合場所(案)	宮中学校												
再編方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆宮小学校・宮中学校を施設一体型の義務教育学校に統合する。</li> <li>◆施設は、現宮中学校の敷地に集約・整備する。</li> </ul>														
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮小と宮中は、現在、全学年でクラス替えができない小規模校です。また、今後、住宅開発等により児童生徒数に増加が見込まれますが、引き続き望ましい学校規模(12~18学級)は下回る見通しとなっています。</li> <li>・宮小及び宮中の校舎等の建築経過年数は右表のとおりです。宮小の普通教室棟は施設更新の検討が必要です。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="651 1288 1393 1393"> <thead> <tr> <th>令和5年度現在</th> <th>普通教室棟</th> <th>特別教室棟</th> <th>体育館</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮小学校</td> <td>55年</td> <td>33年</td> <td>20年</td> </tr> <tr> <td>宮中学校</td> <td>38年</td> <td>38年</td> <td>15年</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来、学校規模の改善のためには他地区の学校との統合を検討すべきですが、両校の通学区(校区)が宮地区自治協議会区域と一致しており、地区内での密接な小中連携が実施されていること、児童生徒数が増加傾向にあることなどを踏まえると、宮地区に立地する学校として再編、整備することが望ましいものと考えられます。</li> <li>・そこで、学校全体としての一定の集団規模を確保するため、両校を施設一体型の義務教育学校に統合します。</li> <li>・義務教育学校の導入により、その利点を活かした教育の実践を図ります。</li> <li>・統合場所は宮中の敷地とします。理由は、宮小に比べ、敷地や運動場が広く、比較的建築年数が新しい宮中の普通教室棟や体育館を継続活用できること、併せて宮中の敷地に小学生(前期課程児童)用校舎を整備することで、老朽化対策が可能となることです。</li> <li>・宮中の敷地については、洪水浸水想定区域であることが懸念されますが、意見交換会にて教育環境としては宮中の方が望ましいとの意見があったことから、宮中を統合場所の候補とし、保護者・地域の皆様のご意見を伺いながら決定していきたいと考えます。</li> <li>・意見交換会において義務教育学校への統合案に理解を示されるご意見が多かった一方で、義務教育学校制度の導入については、引き続き、保護者や地域の皆様との協議が必要だと考えています。</li> </ul>			令和5年度現在	普通教室棟	特別教室棟	体育館	宮小学校	55年	33年	20年	宮中学校	38年	38年	15年
令和5年度現在	普通教室棟	特別教室棟	体育館												
宮小学校	55年	33年	20年												
宮中学校	38年	38年	15年												



## (4) 西地区



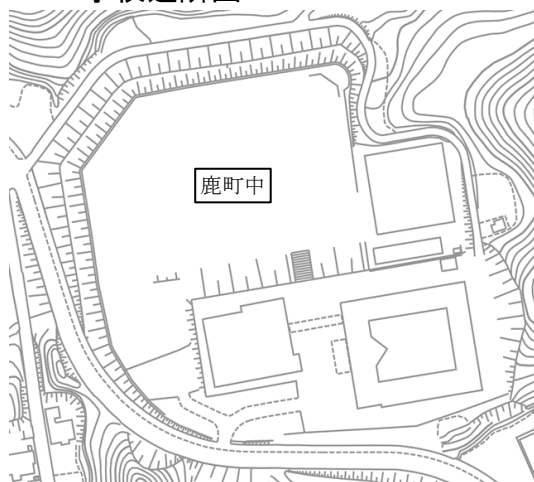
小・中学校	金比良小	光海中
児童生徒数	121名	55名
約20年後の推計	約100名	約40名
学級数(特支含)	6(10)学級	3(6)学級
建築年数	61年	59年
校舎延床面積	3,552 m <sup>2</sup>	2,832 m <sup>2</sup>
運動場面積	約7,700 m <sup>2</sup>	約7,600 m <sup>2</sup>
敷地面積	約15,700 m <sup>2</sup>	約10,500 m <sup>2</sup>
主な自治協区域	西	西

(児童生徒数・学級数・建築年数は令和5年度 校舎延床面積…施設台帳より)

対象校	金比良小学校 光海中学校	統合場所(案)	光海中学校												
再編方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆金比良小学校・光海中学校を施設一体型の義務教育学校に統合する。</li> <li>◆施設は、現光海中学校の敷地に集約・整備する。</li> </ul>														
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金比良小と光海中は、現在、全学年でクラス替えができない小規模校です。また、今後も児童生徒数に大きな増加は見込まれず、引き続き望ましい学校規模(12~18学級)を下回る見通しとなっています。</li> <li>・金比良小及び光海中の校舎等の建築経過年数は右表のとおりです。金比良小の普通教室棟、光海中の特別教室棟は施設更新の検討が必要です。 <table border="1" data-bbox="683 1355 1417 1458"> <thead> <tr> <th>令和5年度現在</th> <th>普通教室棟</th> <th>特別教室棟</th> <th>体育館</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金比良小学校</td> <td>61年</td> <td>30年</td> <td>28年</td> </tr> <tr> <td>光海中学校</td> <td>34年</td> <td>59年と53年</td> <td>17年</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>・本来、学校規模の改善のためには他地区の学校との統合を検討すべきですが、両校の通学区(校区)が西地区自治協議会区域と一致していること、現在も小中一貫型学校として小中連携が実施されていること、令和4年度からコミュニティ・スクールとして地域との連携をさらに深めていくことなどを踏まえると、西地区に立地する学校として再編、整備することが望ましいものと考えられます。</li> <li>・そこで、小中一貫教育のさらなる充実と学校全体としての一定の集団規模を確保するため、両校を施設一体型の義務教育学校に統合します。</li> <li>・統合場所は光海中の敷地とします。理由は、金比良小に比べ平地であり、比較的建築年数が新しい光海中の普通教室棟や体育館を継続活用できること、併せて光海中の敷地に小学生(前期課程児童)用校舎を整備することで、老朽化対策が可能となることです。</li> <li>・両校は平成29年度から小中一貫型学校として運営されており、他校に比べて義務教育学校へのスムーズな移行が可能と期待されます。</li> </ul>			令和5年度現在	普通教室棟	特別教室棟	体育館	金比良小学校	61年	30年	28年	光海中学校	34年	59年と53年	17年
令和5年度現在	普通教室棟	特別教室棟	体育館												
金比良小学校	61年	30年	28年												
光海中学校	34年	59年と53年	17年												

## (5) 鹿町地区

### 学校近隣図

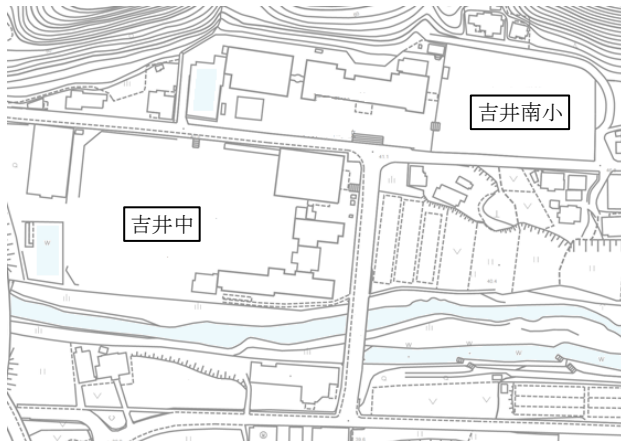


小・中学校	鹿町小	歌浦小	鹿町中
児童生徒数	93名	86名	92名
約20年後の推計	約80名	約50名	約60名
学級数(特支含)	6(8)学級	6(9)学級	3(7)学級
建築年数	50年	52年	26年
校舎延床面積	2,582 m <sup>2</sup>	2,895 m <sup>2</sup>	4,581 m <sup>2</sup>
運動場面積	約8,700 m <sup>2</sup>	約13,300 m <sup>2</sup>	約14,700 m <sup>2</sup>
敷地面積	約18,500 m <sup>2</sup>	約28,700 m <sup>2</sup>	約26,600 m <sup>2</sup>
主な自治協区域	鹿町	鹿町	鹿町

(児童生徒数・学級数・建築年数は令和5年度 校舎延床面積…施設台帳より)

対象校	鹿町小学校 歌浦小学校 鹿町中学校	統合場所(案)	鹿町中学校
再編方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆鹿町小学校・歌浦小学校・鹿町中学校を施設一体型の義務教育学校に統合する。</li> <li>◆施設は、現鹿町中学校の敷地に集約・整備する。</li> </ul>		
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿町小、歌浦小及び鹿町中は、現在、全学年でクラス替えができない小規模校です。また、今後も児童生徒数に大きな増加は見込まれず、引き続き望ましい学校規模(12~18学級)を下回る見通しとなっています。</li> <li>・最も古い校舎の建築年数は、鹿町小で築50年、歌浦小で築52年が経過しており、施設更新の検討が必要です。</li> <li>・本来、学校規模の改善のためには他地区の学校との統合を検討すべきですが、3校の通学区域(校区)が鹿町地区自治協議会区域と一致していること、現在も鹿町スクールエリア推進協議会等で、3校による小中連携及び学校と地域の連携が実施されていることなどを踏まえると、鹿町地区に立地する学校として再編、整備することが望ましいものと考えられます。</li> <li>・そこで、学校全体としての一定の集団規模を確保するため、3校を施設一体型の義務教育学校に統合します。</li> <li>・義務教育学校の導入により、その利点を活かした教育の実践を図ります。</li> <li>・統合場所は鹿町中の敷地とします。理由は、鹿町地区の中央に位置し、かつ、敷地の広さにも余裕があることです。また、比較的建築年数が新しい鹿町中の校舎等を継続活用できること、併せて鹿町中の敷地に小学生(前期課程児童)用校舎を整備することで、老朽化対策が可能となることです。</li> <li>・再編実施を【第1期】とする理由は、意見交換会において再編に理解を示されるご意見が多かったためです。一方で児童の通学距離増大への対応策については、保護者や地域の皆様との継続協議が必要と考えています。</li> </ul>		

## (6) 吉井地区



学校近隣図

小・中学校	吉井南小	吉井北小	吉井中
児童生徒数	186名	68名	140名
約20年後の推計	約120名	約30名	約80名
学級数(特支含)	8(11)学級	6(8)学級	6(10)学級
建築年数	33年	40年	45年
校舎延床面積	3,960 m <sup>2</sup>	2,421 m <sup>2</sup>	3,317 m <sup>2</sup>
運動場面積	約5,200 m <sup>2</sup>	約6,000 m <sup>2</sup>	約13,900 m <sup>2</sup>
敷地面積	約12,700 m <sup>2</sup>	約11,300 m <sup>2</sup>	約18,800 m <sup>2</sup>
主な自治協区域	吉井	吉井	吉井

(児童生徒数・学級数・建築年数は令和5年度 校舎延床面積…施設台帳より)

対象校	吉井南小学校 吉井北小学校 吉井中学校	統合場所 (案)	小学校は吉井南小学校 ※吉井中学校は変更なし
再編方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆吉井南小学校と吉井北小学校を吉井南小学校の敷地に統合する。</li> <li>◆吉井中学校は現状維持とする。(将来的には義務教育学校の導入も検討)</li> </ul> ※大規模な施設整備が必要ないため、【第1期】での短期実現が可能。		
摘要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉井南小は、現在、クラス替えができない学年が多い小規模校です。</li> <li>・吉井北小は、現在、全学年でクラス替えができない小規模校です。</li> <li>・吉井中は、現在、学年あたり2クラスで、全学年クラス替えが可能な規模ですが、望ましい学校規模(12~18学級)は下回っている状況です。</li> <li>・最も児童数が少ない吉井北小の規模改善のため、吉井南小と吉井北小を吉井南小の敷地に統合します。</li> <li>・吉井中は現状維持となりますが、小規模化の課題が残りますので、生徒数の推移を見ながら、将来的に義務教育学校への統合を検討していきます。</li> <li>・再編実施を【第1期】とする理由は、吉井中と吉井南小の施設をそのまま活用することで大規模な工事を必要としないため他地区と並行しながら早期の着手が可能と考えられるためです。</li> </ul>		

別表2 「宇久」「宮」「西」「鹿町」「世知原」「吉井」通学区域の変更（案）及び児童生徒数推計一覧表

(P.14~P.18 関係)

地区	再編前			再編後（案）	
	中学校	小学校	通学区域	学校名（仮称）	通学区域
	(2023 児童生徒数)			【統合場所】	
			(2040 児童生徒推計)		
宇久	宇久中 (16名)	宇久小 (32名)	宇久町平 宇久町野方 宇久町太田江 宇久町木場 宇久町大久保 宇久町小浜 宇久町神浦 宇久町飯良 宇久町本飯良 宇久町寺島	統合義務 教育学校 【現 宇久中】 (約 20名)	変更なし
宮	宮中 (53名)	宮小 (138名)	南風崎町 城間町 瀬道町 萩坂町 奥山町 宮津町 長畑町	統合義務 教育学校 【現 宮中】 (約 200名)	変更なし
西	光海中 (55名)	金比良小 (121名)	神島町 鶴渡越町 今福町 金比良町 御船町 矢岳町 平瀬町（一部を除く）	統合義務 教育学校 【現 光海中】 (約 140名)	変更なし
鹿町	鹿町中 (92名)	鹿町小 (93名)	鹿町町深江 鹿町町新深江 鹿町町深江潟 鹿町町土肥ノ浦 鹿町町鹿町 鹿町町口ノ里（一部を除く）	統合義務 教育学校 【現 鹿町中】 (約 190名)	鹿町町深江 鹿町町新深江 鹿町町深江潟 鹿町町土肥ノ浦 鹿町町鹿町 鹿町町口ノ里 鹿町町上歌ヶ浦 鹿町町下歌ヶ浦 鹿町町中野 鹿町町船ノ村 鹿町町長串 鹿町町九十九島 鹿町町大屋
		歌浦小 (86名)	鹿町町上歌ヶ浦 鹿町町下歌ヶ浦 鹿町町中野 鹿町町船ノ村 鹿町町長串 鹿町町九十九島 鹿町町大屋 鹿町町口ノ里の一部		
吉井	吉井中 (140名)	吉井南小 (186名)	吉井町立石 吉井町大渡 吉井町前岳 吉井町踊瀬 吉井町春明 吉井町橋川内 吉井町橋口 吉井町上吉田 吉井町田原 吉井町吉元 吉井町下原 吉井町乙石尾 吉井町高峰	統合小学校 【現吉井南小】 (約 110名)	吉井町立石 吉井町大渡 吉井町前岳 吉井町踊瀬 吉井町春明 吉井町橋川内 吉井町橋口 吉井町上吉田 吉井町田原 吉井町吉元 吉井町下原 吉井町乙石尾 吉井町高峰 吉井町福井 吉井町草ノ尾 吉井町福井 吉井町板樋 吉井町梶木場 吉井町直谷
		吉井北小 (68名)	吉井町草ノ尾 吉井町福井 吉井町板樋 吉井町梶木場 吉井町直谷		

## Ⅱ 学校再編実施「未定」・「保留」 地区の検討課題について

(1) 再編実施「未定」地区

地区	学校名	再編案	統合提案場所	検討課題	
三川内	三川内小学校・三川内中学校	施設一体型 義務教育学校に統合	三川内小学校の敷地へ集約・整備	再編の方向性	<p>○再編の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校案への賛成意見も見られた一方、「今のまま（再編なし）でよい」、「三川内は良い環境。小・中、そのまま残してほしい」といったご意見があるため、再度三川内地区の学校再編の方向性についての議論に時間を要すると想定されること。</li> </ul> <p>○義務教育学校制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校制度への疑問が多数出されていたことから、小中一貫教育の導入により、三川内地区の児童生徒をどのように育てていくのかという議論に、引き続き時間を要すると想定されること。</li> </ul>
				通学区域	<p>○通学区域の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模化解消のため、「他地区からの生徒の受け入れ」や「通学区域の変更」についてのご意見があったことから、統合以外の再編案の検討も必要であること。</li> </ul>
針尾・江上	針尾小学校・江上小学校・東明中学校	施設一体型 義務教育学校に統合	東明中学校の敷地へ集約・整備	再編の方向性	<p>○I R誘致と再編計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『学校再編で児童数減少』、『I R誘致で人口増加』と、相反する説明を受けて住民が困惑している」という意見もあった。また教育委員会の児童生徒数推計にはI Rの要素を加味していないことから、I Rの動向によって、再編の方向性に影響が出る可能性があり、現時点では結論を急ぐべきではないと判断されること。</li> </ul>
				通学環境	<p>○通学バスの助成、運用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内でも路線バス利用とスクールバスで、保護者負担の有無などに不平等感があること。</li> <li>・学校でのバス乗降時における、児童生徒の安全性確保について。</li> <li>・路線バスではなく、スクールバス導入可能性の検討について。</li> </ul> <p>○送迎時の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現東明中では、保護者の送迎による駐車で周辺から苦情があること。</li> <li>・統合すればさらに送迎車が増加する可能性があること。</li> </ul>
				施設	<p>○避難所について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江上小や針尾小の施設の避難所としての機能継続について。</li> </ul>
柚木	柚木小学校・柚木中学校	施設一体型 義務教育学校に統合	柚木中学校の敷地へ集約・整備	再編の方向性	<p>○義務教育学校制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校への賛成意見も見られた一方、「義務教育学校になることでのデメリットはないのか」「小中一貫型学校ではいけないのか」といった、義務教育学校制度導入への疑問が多数出されたことから、小中一貫教育の導入により柚木地区の児童生徒をどのように育てていくのかという議論に、引き続き時間を要すると想定されること。</li> </ul>
				通学区域	<p>○他地区との通学区域変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校への再編では、学年あたりの人数が増えないことから、「他地区との通学区域変更は考えないのか」との意見があった。地域の意見を聞きながら、他の選択肢も含めた再編の在り方について協議の必要があること。</li> </ul>
				施設	<p>○統合時の施設整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童用校舎の設置（増築）場所について。</li> </ul>

地区	学校名	再編案	統合提案場所	検討課題	
小佐々	小佐々小学校・楠栖小学校・小佐々中学校	施設一体型 義務教育学校に統合	小佐々中学校の敷地へ集約・整備	通学路	○通学路の安全確保について ・小佐々中までの通学路で、途中、民家や人の目が少ないことから、バスの利用も含め、児童の安全確保の対策が必要であること。
				再編の方向性	○再編の時期について ・児童の学年あたりの人数が増えることで、再編案への賛成意見も出された一方で、優先度の低さから「今すぐ考える必要はない」との意見も多かったこと。さらに小佐々中への統合案以外に、他の選択肢も示してほしいとの意見があったこと。これらのことから、学校再編の内容や時期についての議論に時間を要すると想定されること。
				地域連携	○コミュニティ・スクールと学校再編について ・仮に小佐々中に統合した場合、「近くの小学校だから協力できる。中学校までは行けない。」「通学バスで登校見守りの楽しみを奪う。コミュニティ・スクールが壊れる。」といったご意見があったように、小佐々地区海光町学園コミュニティ・スクールを構成する小学校と地域の関係の緊密さを考慮する必要がある。そうした学校と地域の連携の在り方について、議論に時間を要すると想定されること。
				施設	○統合時の施設整備について ・児童用校舎の設置場所について。(小佐々中の敷地が狭いと意見あり)
江迎	江迎小学校・猪調小学校・江迎中学校	施設一体型 義務教育学校に統合	江迎中学校の敷地へ集約・整備	通学助成	○公共交通機関やスクールバスの導入について ・「統合になれば、バス等の通学助成は必須。」という意見がある一方、バス通学は学校の日課と合わせるのが難しいという意見もあるなど、通学助成の在り方や実際の運用について、引き続き協議が必要であること。
				再編の方向性	○義務教育学校か小中一貫型学校かの選択について ・6年生の卒業や、校長の児童生徒管理面といった視点から、義務教育学校ではなく、小中一貫型学校を選びたいという意見があった。また、再編優先度が低いことから、再編を急がず、他地区の導入例から分析したことを、江迎地区の再編に生かしていくべきとの意見があった。これらのことから、小中一貫型学校及び義務教育学校のメリットなどを整理したうえで、小中一貫教育の導入により、江迎地区の児童生徒をどのように育てていくのかという議論に、引き続き時間を要すると想定されること。
				施設	○統合時の施設整備について ・児童用校舎の設置場所について。 ○大雨時の安全対策について ・大雨時における、江迎川から江迎中への越水対策について。
世知原	世知原小学校・世知原中学校	施設一体型 義務教育学校に統合	未定	施設	○統合時の施設設備について ・世知原中の建築年数が47年を経過しており、今後施設更新検討が必要になる。小学校の建築年数は15年と新しいが敷地が狭く、施設一体型の義務教育学校は難しい。そこで、施設分離型の義務教育学校の案も検討されたが、施設が約400m離れており、児童生徒や教職員の移動を考えると現時点で義務教育学校の効果が十分に発揮できない。今後、児童生徒数の増減の推移を見ながら検討が必要であること。

(2) 再編実施「保留」地区

地区	学校名	再編案	統合提案場所	検討課題	
清水・北	大久保小学校・清水小学校	大久保小学校と清水小学校の統合	清水小学校の敷地に集約	通学路	<p>○通学路の安全確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大久保小の通学区域から清水小までの通学路の高低差や狭さ等、安全性への懸念について。</li> <li>・児童数が増加することで送迎が増えることによる周辺交通状況対策について。</li> </ul>
				通学区域	<p>○大久保小と祇園小の通学区域の調整について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童数が多い祇園小との通学区域の見直しを行えば、大久保小の規模改善につながるのではないか。」という意見があったことから、通学区域の変更についても議論の必要性があるか検討すること。</li> </ul> <p>○指定外通学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定外通学が学校規模に影響を及ぼしているという議論について。</li> </ul>
				再編の方向性	<p>○統合メリットの少なさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大久保小は小規模ながら、地域と連携して成果を出している。」「再編で地域との関わりがなくなる。」など、再編のメリットが感じられないという意見が多かったことから、学校規模と子どもたちの教育環境に関する議論に、引き続き時間を要すると想定されること。</li> </ul> <p>○大久保小の施設老朽化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大久保小の校舎は築30年未満と比較的新しいため、現時点で老朽化の課題は少ないこと。</li> </ul> <p>○学童について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮に統合した場合の、現大久保小児童の学童クラブについて。</li> </ul>
中部	山手小学校・小佐世保小学校	山手小学校と小佐世保小学校の統合	小佐世保小学校の敷地に集約・整備	通学路	<p>○通学路について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山手小の通学区域から小佐世保小までの通学路の距離、高低差等、児童の負担増、安全性への懸念について。 (路線バスやスクールバス導入の検討を含む)</li> </ul>
				通学区域	<p>○通学区域の見直しによる学校規模改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「統合案だけでなく、通学区域の見直しによる案の提示も必要。」という意見があったことから、再度、中部地区の学校再編の方向性についての議論に時間を要すると想定されること。</li> </ul> <p>○指定外通学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定外通学が学校規模に影響を及ぼしているという議論について。</li> </ul>
				地域連携	<p>○地域コミュニティの維持について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花園中に続き、山手小も統合されれば、山手小を指定校とする町内に市立学校がなくなる。」「学校は地域の拠り所であり、学校が無くなれば、子育て世帯の居住誘導が難しくなる。地域コミュニティの維持にも影響が出てくる。」といった意見があったことから、学校と地域の連携の在り方について、議論に時間を要すると想定されること。</li> </ul>



地区	学校名	再編案	統合提案場所	検討課題	
相浦	相浦小学校（本校）・高島分校	相浦小学校本校へ統合	相浦小学校（本校）	通学路	○船舶通学について ・低学年児童の船舶通学への保護者の不安の強さや、荒天時に島に帰れない状況の想定などの意見から、安全対策のハードルの高さが想定されること。
				再編の方向性	○高島ならではの教育環境について ・「きめ細かな指導が行き届いている。」や「高島ならではの貴重な学びや体験が可能である。」といった意見が多く、離島であることを踏まえ、小規模化の課題だけでなく、小規模校としてのメリットを最大限に生かすなど、高島の教育環境整備について、引き続き多面的な検討が必要であること。
				地域連携	○地域コミュニティの維持について ・「高島分校が、住民にとってシンボリック的存在である。」や「小学生がいないと島内行事ができない。」など、保護者・地域の皆様の分校存続を求める声が強いため、地域コミュニティの維持の観点からも慎重な検討が必要であること。
				施設	○島内インフラの維持について ・体育館が高島唯一の避難所であること。 ・運動場がヘリポートとして緊急時に活用されていること。
相浦	相浦西小学校（本校）・大崎分校	相浦西小学校本校へ統合	相浦西小学校（本校）	通学路	○通学路の安全確保について ・現大崎分校の通学区域から相浦西小まで、高低差、見通しの悪さ、街灯の少なさ、猪等の出没など、通学路の安全確保について。
				地域連携	○地域コミュニティの維持について ・「分校を中心に地域がまとまっている。」や「将来の大崎地区を残すためには分校を残すべき。」など、保護者・地域の皆様の分校存続を求める声が強いため、地域コミュニティの維持の観点からも慎重な検討が必要であること。
				施設	○施設老朽化対策について ・意見交換会では、「比較的新しい南校舎（築26年）だけでも、学校運営が可能ではないか。」といった意見があった。再編理由の一つである施設老朽化の課題についても多面的な検討が必要であること。
愛宕・九十九	赤崎小・船越小・愛宕中	施設一体型 義務教育学校に統合	愛宕中学校の敷地へ集約・整備	通学路	○建設予定である県道の動向について ・今後、SSKバイパスから俵浦方面に県道が新しく建設される予定である。愛宕中学校の前を通るルートで計画されているので、その動向を見据えて、通学路の安全やスクールバスの運用についても検討すべきであること。
				再編の方向性	○今後の児童生徒数の推移について ・子供の数が減るといっては確定した話ではなく、ある程度維持していく可能性も十分にあること。 ○学校再編に付随する課題について ・学校に関連する課題が多く、統廃合するデメリットの方が上回る状態である。それを解決しないと話は進められない状況にあること。
				施設	○施設不足の懸念 ・3校を統合し、義務教育学校にすることにより、授業で使用する体育館等の利用が競合し、授業に支障が出ることへの懸念。 ○統合予定地の立地条件への懸念 ・愛宕中近隣が特別災害警戒区域に指定されており、統合学校の建設場所を検討する必要があること。